

W新しい仲間が増えましたW

谷口 智己 (33)

施工部1課



大阪府出身の二児のパパです。

好きな言葉は『前へ』『バランス』『正しい事より楽しい事』。
ジョギングや日曜大工を趣味にしています。

中学～社会人まで13年間ラグビーをやり、精神的・肉体的に鍛えてきました。今もマラソン大会などにエントリーしてスポーツは続けています。

今後はその経験を活かして、家庭に仕事に精進します。

仕事でも『金』、パパでも『金』が目標です。

吉田 裕志 (32)

管理部



2008年10月16日に入社致しました、吉田裕志（よしだ ひろゆき）と申します。

少しでも早く仕事に慣れ、色々なことを積極的にチャレンジして自分を成長させ、そして皆様から信頼して頂けるよう、努力したいと思えます。

至らない点が多々あるかと思いますが、何卒ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

岡戸 篤司 (36)

営業企画部



2008年10月に入社致しました岡戸と申します。

入社してまず驚いたのは、先輩スタッフの意識の高さです。
研修も非常に充実しており、技術・知識の向上に、日々磨きをかけています。

私も、一流の環境衛生コンサルタントになるべく、全力で精進して参ります。

施工に伺った際は、ぜひお気軽に声をおかけ下さい。

何卒よろしくお願い申し上げます。

地球の環境衛生を創造する
FCC
株式会社 fine, comfortable & creative

株式会社 FCC

住所：神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

FCC News

2008年11月号

NO. 0057



目次

本紙

ゴキブリ小話④

サルモネラを予防しましょう!

害虫抑制の為、5Sを徹底しよう

新しい仲間が増えました

別紙

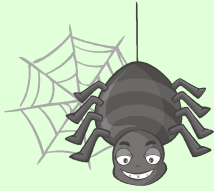
季節のムシ暦

環境コラム

ゴキブリ小話④ ～ゴキブリの天敵『アシダカグモ』～

『ギャ〜、出た〜』

突如、現れた巨大なクモ。そんな経験はありませんか？恐らく、それは『アシダカグモ』と呼ばれる種のクモです。

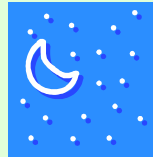


建物の僅かな隙間からでも侵入してくる、ご存知『クロゴキブリ』の天敵です。その為、度々「益虫」と呼ばれています。



その体長は20mm〜30mmで大きく広げた足も含めると100mmを超える大きさを誇ります。

夜行性で薄暗い場所を好む為、人家の天井裏や家具の陰に隠れている事が多いです。



禍々しい外見をしていますが、人を害する毒は持たず基本的に咬害もありません。

人に害を与えず、ゴキブリを駆除してくれるアシダカグモはまさに『家の守り神』と言えるかもしれません。

・・・勿論、益虫と言われる反面、そのグロテスクな外見ですので、不快害虫として扱われる事があります。この様にアシダカグモは、『益』『害』の両面をもたらす昆虫なのです。



サルモネラを予防しましょう！

サルモネラ食中毒は典型的な感染型食中毒です。現在発生する食中毒の2〜3割がサルモネラ属菌による感染とされています。



鶏卵を使用した菓子による大規模な感染が多くみられるのが特徴に挙げられます。



サルモネラ属菌はネズミの媒介による感染が多数を占める為、衛生状態の向上により一時は下降傾向にありました。

しかし、近年では鶏肉や鶏卵を介した食中毒が増加し、ドブネズミより駆除が困難なクマネズミの増殖によって、再び問題視されるようになりました。



主な症状は、嘔吐、水様性下痢などの消化器症状、発熱（高熱）などで、抵抗力のない人は菌血症を起こし重症化することがあります。

稀に、内毒素によるエンドトキシンショックで死亡する事例もあります。平均12時間程の潜伏期間を経て発症します。但し、時には3〜4日後に発症する事例もあります。

～食中毒を予防の為の5か条～

1. 原因の殆どが食品の加熱不足です。肉・魚などは十分に加熱を！
2. サラダなどな生で食べる野菜は、十分に洗いましょ。 (洗剤を用いると効果的です)
3. まな板、包丁なども常に清潔に！
4. ネズミからの感染を防ぐ為、食品は常に密閉保管を！
5. 作り置きは控えましょ。

害虫抑制の為、5Sを徹底しよう！

近年、よく聞く言葉『5S』。一般に、整理・整頓・清掃・清潔・躰の事を指します。

ゴキブリを始めとした害虫の多くは、片付けられていないゴミや、雑然として整頓できてない場所に寄ってきます。



これらの原因を『5S』の徹底で、排除ましょ。

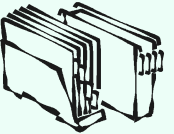
1. 整理

不必要な物を処分ましょ！動かさず、仕舞いっぱなしのモノは害虫の棲家になります。



2. 整頓

物を処分した後、仕舞う物は整然と収納ましょ。



3. 清掃

ゴミを取り除きましょ。ゴミは害虫の餌となり、棲家になってまいます。



4. 清潔

ゴミを処理したら、次にゴミの無い清潔な環境を保ちましょ。



5. 躰

上記1〜4を保つ為の決め事を守る習慣をつけましょ。



室内をきれいに保つ事により、害虫の繁殖しづらい環境を作りましょ。

季節のムシ暦 ⑫

著者 医学博士・農学博士 林 晃史

紅葉シーズンに騒ぐゴキブリ

以前、ザ・ゴキブリ」でゴキブリの話をしたが、盛夏よりも寒さに向う頃、大型ゴキブリの出没が目立つ。それは、永い冬ごもりの為に住み心地の良い所を探し歩くからである。この時期に良い場所を見つける事が出来ない、生きながらえる事が、かなわない。

ゴキブリには、意外に泣き所が多いのが面白い。こんな盲点を探すのが、プロの眼力である。衛生的な環境づくりに、今一度、ゴキブリを見直してみよう。

「ゴキブリ研究の歴史」

この日本で、ゴキブリの系統的な研究が始まったのは、それ程、昔の事では無い。

ゴキブリの分類の研究は、大生物学者の松村松年博士が手がけられ、今日の形にまとめられたのが、今から77年前の昭和6年のことである。

また、生態や防除の研究は、今から101年前の明治40年に佐々木忠次郎と云う先学者が、ちやばねあぶらむし」と云う論文を発表した事に始る。

問題になるゴキブリの種類は、人の生活様式に大きく影響される。今でこそ、ゴキブリと云えば、多くの人が「チャバネゴキブリ」を思い描き、「都市型害虫」などと云うが、その前は、「ワモンゴキブリ」がそれであった。

「ワモンゴキブリと云う虫」

このかつての都市型害虫であるワモンゴキブリは、アメリカンコックロウチと称されていて、アメリカに多かった。

このゴキブリは、日本でも九州南部に土着していたと云われているが、不思議な事に、本州での確実な分布記録が無い。

今日では、京都市内、大阪市内、紀州白浜、横浜市内に分布している事が知られている。

東京では、東京駅構内のマンホールで発見され、分布の記録となった。この分布の記録が大切なので、見つけた証拠を何かに残しましょう。

このゴキブリが分布を広げ、定着するようになったのは、建物のスチーム暖房の普及と地下マンホールの発達による。

産卵は、暖かい時期だと2〜7日に1個、寒い時期には、1〜2週間に1個と云う状況である。その卵期間は、19日〜88日と幅広いが、通常だと38日〜49日を要する。

幼虫期間は、普通の室温だと約9ヶ月〜2年で、温度の一定した飼育室で条件が良いと5ヶ月〜9ヶ月である。

成虫の寿命は、雌が3ヶ月〜25ヶ月、雄で6ヶ月〜14ヶ月である。私が確認した発育速度は、最短が155日、最長で240日を越した。

しかし、幼虫から成虫になる割合は、76%であった。

この生活史は、よく見かけけるチャバネゴキブリと大きく違い、非常に変化に富んでいるのが特徴である。

この時期、移動状況をよく観察し、定着させない努力が必要である。よく知ろう、大型ゴキブリのワモンゴキブリ!!



【写真説明】

簡単に定着していた、やっかいなワモンゴキブリ。胸部の紋と尾端に特徴がある。

環境コラム ～フロンガスを削減しよう～

「フロンガス」・・・

地球温暖化問題を考える時、必ずと言っていいほど出てくるキーワードです。誰もが一度は耳にした事があるこの言葉。

しかし、「フロンガスって何？」と聞かれた時、しっかり答えられる方はどのくらいおられる事でしょう。

「オゾン層を破壊する」「温暖化を引き起こす」 e t c . . .

その通りです。しかし、フロンガスの問題がどれほど深刻な問題かご存じでしょうか？

フロンガスは二酸化炭素に比べて、数千倍から1万倍の温室効果があります。大気中に流れ出たフロンガスは成層圏まで永い年月をかけて上昇し、オゾン層を破壊するのです。

今、オゾン層を破壊しているフロンガスは約15年前に放出されたフロンガスと言われています。つまり、今日からキッパリとフロンガスを断ったとしても、今後15年間はオゾン層を破壊し続けるわけです。

そう考えると、「一刻も早いフロンガスの完全回収の必要性があると気付かされます。

フロンガスの中でも特に有害なCFC（クロロフルオロカーボン）は1995年に全廃されましたが、それ以前に生産された家電には使用されており、また、ハイドロフルオロカーボンに関しては、今も『規制』に止まっています。

また、2001年には「特定製品に係るフロン類の回収および破壊の実施の確保等に関する法律」が施行されています。

それにも関わらず、今も有害フロンは大気中に放出されています。

それは何故でしょう?」

フロンを使用した製品を特定業者を通さず、不法投棄されているという現状がある為です。また、企業の方でも回収した家電をフロン回収しないままに、プレスするという事もありました。コストダウンが理由なのでしょう。

こうした自分の事しか考えないモラルの低さが、今もフロンガスの放出が止まない一番の原因です。

フロンガスは実に様々な家電に使用されています。最も身近に使用されているものとしては、冷蔵庫やエアコンの冷媒や断熱材に使用されています。

その他、工業用品の洗浄剤に使用されていたり、一部のスプレー缶の噴射剤に使用されていたり・・・、これらの中でも、特に古いものにはかなり高い確率で使用されています。

これらのフロンを使用した製品は、誰もが持っているものであり、一部の人が頑張れば何とかなるものでもありません。一人一人、世界中で心を合わせて取り組んでいかなくてはならない問題なのです。

